

# 事業所自己評価シート

令和4年度

## 職員による自己評価

実施：令和5年3月 回収3名

### A環境面

1. 訓練室等スペース  
67%確保されているとの評価だった。
2. 職員の配置数  
33%が適切であるという評価だった。
3. 設備においてバリアフリー化の配慮  
33%適切であるという評価だった。

### B業務改善

4. 業務改善を進めるための参画  
100%が評価していた。
5. 保護者の意向を把握し業務改善につなげているか  
100%の評価だった。
6. 自己評価結果の公開  
100%が適切に公開しているという評価だった。
7. 外部評価について、  
100%が外部からの評価を業務改善につなげていると評価している。
8. 研修の機会確保  
100%が評価しており、研修により質の向上を図っている評価を得た。

### C適切な支援の提供

9. 客観的分析による個別支援計画の作成  
100%が適切にできているとの評価だった。
10. 標準化されたアセスメントツールの使用  
100%が使用できていると評価している。
11. 活動プログラムの立案  
100%がチームで行うことが出来ていると評価している。
12. 活動プログラムの工夫  
100%が固定化しないよう工夫していると評価している。
13. 課題設定に応じた支援内容  
100%が出来ていると評価している。
14. 子どもの状況に応じた支援計画の作成  
100%が出来ていると評価している。
15. 支援開始前の打ち合わせ  
100%が出来ていると評価している。
16. 支援終了時の振り返り  
67%が出来ていると評価している。
17. 記録の徹底、支援の検証・改善  
33%が出来ていると評価している。
18. 定期的なモニタリングによる個別支援計画の見直し  
100%が出来ていると評価している。

## 保護者による評価

実施：令和5年3月 回収53名

### A環境面

1. 活動のスペース確保  
94%確保されているとの評価であった。
2. 職員の専門性  
92%が適切であるという評価を得られた。
3. 設備  
86%がバリアフリー化の配慮がされていると評価していた。

### B児童への支援内容

4. 個別支援計画作成  
83%は客観的に作成され分かりやすく説明されているという評価だった。
5. 活動プログラムの工夫  
84%工夫されているという評価だった。

### C事業所からの情報発信

6. 利用者負担や支援内容の説明  
90%丁寧な説明がなされたという評価であった。
7. 子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解  
92%できている評価であった。
8. 保護者面談や育児相談の支援  
92%が適切に行われているという評価であった。
9. 保護者会など保護者同士の連携  
58%しか評価がなく、どちらともいえないと評価したのが8%、機会が少ないと感じている方が9%、詳しくわからないと答えた方が25%だった。昨年度と評価は大きく変わっていないがコロナ対策の継続が影響したためと考えられる。
10. 苦情に対する対応  
63%が適切に対応していると回答している。昨年度より低下しているが、分からないという回答が30%いるためと考えられる。また分からないと回答した中にはそもそも苦情を聞いたこと(感じた事)がないという意見も見られた。
11. 意思疎通や情報伝達のための配慮  
92%が適切であると評価している。
12. 情報発信について  
83%が適切であると評価している。昨年度より減少したが広報誌、Instagramなど発信の機会が少なくなったためと考えられる。

19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせた支援

100%が出来ていると評価している。

#### **D 関係機関と保護者との連携**

20. 相談支援のサービス担当会議への参画

100%が適切な人材が参画していると評価している。

21. 学校との情報共有、連絡調整

100%が適切に行っていると評価している。

22. 医療的ケアの子どもの受け入れ、主治医との連携体制

67%が適切にできていると評価している。これは医的ケア児が当事業所にいないことが関係していると考えられる評価である。

23. 就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解

33%が出来ていると評価している。

24. 事業所を移行するときの情報提供

100%が出来ていると評価している。

25. 専門機関との連携や助言・研修の活用

67%が出来ていると評価している。

26. 地域自立支援協議会等への参加

100%が出来ていると評価している。

27. 利用者に関する保護者との共通理解

100%が出来ていると評価している。

28. ペアレントトレーニング等の保護者支援

100%が出来ていると評価している。

#### **E 保護者への説明責任**

29. 運営規定、支援内容、利用者負担額の説明

100%が丁寧な説明を行っているという評価がある。

30. 保護者からの相談対応の支援

100%が出来ていると評価している。

31. 保護者同士の連携の支援

33%が出来ていると評価している。

13. 個人情報の扱いについて

83%が十分注意していると評価している。

#### **D 非常対応**

14. 緊急時対応、防犯、感染症対応について、

86%が適切に対応していると評価している。前年度よりも微減しているが、そもそも緊急対応が必要な事態が起こっていないため、分からないと回答した方が10%に微増したためと考えられる。

15. 非常災害の訓練

73%が適切に行われていると評価している。前年度よりプログラムの回数を増やしたが、個別支援や新規利用者の方など分からないと答えた方が20%いたためと考えられる。

#### **E 満足度**

16. 通所を楽しみにしている

評価は76%であった。前年度とほぼ変わらないが、ふれんどは訓練要素が高いためであると考えられる。

17. 支援への満足

評価は88%であった。昨年度に比してほぼ変わらないが、約9割の方より満足頂いているという評価が得られた。

## 事業所内での分析

### 【共通点】

**環境面：**職員の専門性、スペースの確保についてはともに高い評価が多かった。施設のバリアフリー化については86%の支持を得られているが、引き続き進めていきたい。職員の認識に関しては施設、職員配置ともに足りないという認識がある。そもそもの支援者の人数や施設の老朽化が進んでいることなどが大きな要因と考えられるため、抜本的な改善が必要な面もある。

**児童への支援内容：**職員・保護者ともに評価が高い内容が多かった。保護者からは個別支援、集団支援など子どもの特性に合わせたプログラムや保護者への丁寧な対応を評価していただく意見が多くあった。また集団支援においてはお子様が楽しみに通われている点を評価していただく意見が多かった。

**事業所からの情報発信：**昨年度に比べ、低下しており、広報誌の発行が滞った点やインスタグラムの更新などが少なかったことが影響していると考えられる。また苦情対応についても減少しているが、分からないと答えた方についてはそもそも苦情を聞いた（感じた）ことがないため分からないという意見が見られた。職員側としても保護者イベントや広報誌についてあまり発信できていない所感がある。

**非常対応：**過半数が適切に対応していると評価している。昨年度に比べ非常災害の訓練の項目は減少しているが、新規利用者や個別支援の中で都合が合わず実施できなかった方が一定数いたためと考えられる。

### 【相違点】

**環境面：**職員の評価として人員の配置数に疑問が残るといった意見が出ている。バリアフリー化については職員、保護者で大枠では一致している。

**児童への支援内容：**相違点は特に見受けられなかった。

**保護者への説明等：**相違点は見られなかった。

**非常時の対応：**保護者側の評価に対して職員側の所感として非常時の対応に不安が残るといった意見がある。災害や感染症発生時のマ

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- ・職員に専門性がある。
- ・適切なアセスメントを行い客観的に分析し計画作成している。
- ・医療、学校、家庭や他機関（療育センター、児童相談所、区行政など）との連携が実践的に行なっている。
- ・保育所等訪問支援があり、学校での問題行動にも対応できる。
- ・臨床経験がある臨床心理士、看護師などの有資格者がいる事業所である。

### 事業所の改善点

- ・施設老朽化や適切な人員配置など環境面の課題に対するアプローチ。
- ・保護者会や交流会を増やし、保護者同士の交流を促す。
- ・緊急時の対応について職員への継続的な研修、訓練の機会を設けていく。
- ・広報誌など情報発信の機会を増やし、保護者に事業所について周知していく。

## 事業所の改善への取り組み

### 環境面：

- ① 2階の階段の電気を点灯することは継続的に行う。また、階段を上ることに負荷がかかるご利用者は階段を上らずに支援が受けられるように1階での支援実施の配慮をしていく。

### 支援内容：

- ① 子どもや保護者の要望を話し合いながら取り入れ、計画的に活動プログラムの工夫を図る。
- ② 支援やプログラムの内容の専門性維持のため、引き続き研鑽していく。
- ③ 保護者からの相談内容は、担当者のみならず事業所全体で向き合っていく。

### 情報発信：

- ① 保護者会、談話会、交流会を定期的に開始する計画を立案実施する。また、保護者会を行ったことを周知していく。
- ② 苦情対応について、契約書の説明の際に丁寧に説明をする。広報誌でも周知できるよう、発行を再開していく。

### 非常対応：

- ① 緊急時対応マニュアル、防犯、感染症対応マニュアル策定、保護者への説明や周知を徹底する。
- ② 災害時の訓練会の実施を継続し、広報誌などで周知していく。

### その他：

業務改善において、事業所スタッフが一丸となって共通理解を図り、支援をしていく。また、各支援員の強みや個性を活かしていきけるような職場環境にしていく。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者同士の交流や広報誌の発行が滞るなど、情報を十分に周知出来ていなかったことを痛感しました。来年度はこれら問題点を検討し、特に保護者同士の交流の機会や情報発信などやっていたらと考えています。また、支援内容についての評価は80%以上評価いただいておりますが、さらに評価していただけるよう、研鑽を続けていきます。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスふれんど  
担当者 内 将治